

ケアラーズサロンの多様性と持続化支援 及び IT 情報網の促進事業 事業報告書



目次

I .はじめに	p 1
II .事業の目的及び概要、実績	p 2
1. ケアラーズサロン担い手講座事業	p 2
2. ZOOM講座事業	p 6
3. LINE講座事業	p 8
4. 多様なケアラーズサロン交流会・勉強会事業	p12
III .成果と今後の展望	p16

認定特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター とは

1999年に「埼玉NPO連絡会」を母体に設立された。県域を対象とし、活動分野を問わずにNPO・市民団体支援を行う民間の中間支援組織として発足。「市民自治・地域開発事業」として2000年の「埼玉介護保険サポーターズクラブ事業」（県受託事業）を皮切りに「介護保険制度」や「地域福祉」「ケアラー支援」に関わる事業を多数行ってきた。

2009年から始めた「ケアラー支援事業」では延べ8200人の市民が参加している。行政にお任せするのではなく市民自らが「地域の暮らし」を作り上げることを目的の一つにしている。

I.はじめに

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、日本社会に多大な影響を与えたが、市民活動も例外ではない。

さいたまNPOセンターでは2009（平成21）年から「ケアラーへの社会的支援」をテーマにした「介護者支援セミナー」を8年にわたって開催し、ケアラー支援団体を29立ち上げ、市民による「ケアラーズサロン」運営を支援してきた。連携する「ケアラーズサロン」は40か所に及ぶ。

しかし、サロンは開設されて10～7年と経過して、運営するボランティアの高齢化や新型コロナ禍による会場閉鎖、ボランティアの志気の低下などで活動が停滞気味である。打開するためには新型コロナ終息後のサロン活動を見据えて、担い手の再研修や新たな担い手の育成が必要である。

またサロン運営者とケアラーとのスマホやPCを使った情報ネットワークの構

築や「オンライン介護者サロン」を実施するためには、運営においてIT活用を推進する必要がある。

「ケアラー」とは高齢者の介護を無償で行う人だけでなく、身体上、精神上的の障害や疾病を持つ人の介護者も含まれるが、後者のケアラーへの支援が、障害・疾病のある要介護者へのサービスの増強になりがちで、ケアラー本人への心理面や生活、将来へのサポートの視点が不足している。会員制の障害や疾病別の家族会でのピアサポートの場とは違ったコンセプトの、会員でなくても多様なケアラーが気軽に自由に集える「場」や「サロン」の中でケアラーが癒され、自身を取り戻していくことが必要である。

上記の理由から、本事業では①ケアラーズサロン担い手講座事業②ZOOM講座事業③LINE講座事業④多様なケアラーズサロン交流会・勉強会の4つの事業を実施した。

1. ケアラーズサロン担い手講座事業

■ 目的 ■

既存のケアラー支援団体の活動の継承と担い手を増やす。

■ 概要 ■

「ケアラーズサロン担い手育成講座」を本庄市で2回と越谷市で1回、草加市で1回行った計4回行った。各講座は1回3時間。見学会は希望者が5人あったが、一度決まった日程がキャンセルとなり、3月31日までには実施できなかった。

●本庄会場

① 第1回 ケアラーズサロン担い手講座

日時 2022年7月4日 13時30分～16時30分

場所 本庄市市民活動交流センター

プログラム

- ・ケアラーの現状と課題（堀越栄子日本女子大学名誉教授の講義）
- ・ケアラーの体験談 相庭千恵子さんの話
- ・ケアラーズサロンの効果と運営について（村田恵子専務理事が講義）
- ・講義の振り返りのワークショップ
数人に分かれてグループワークで行った。（村田恵子がファシリテーター）

② 第2回 ケアラーズサロン担い手講座

日時 2022年7月11日 13時30分～16時30分

場所 本庄市市民活動交流センター

プログラム

- ・傾聴の講義とロールプレイ
村松治子さんによる講義とロールプレイ。3人1組で行われた。
- ・講義の振り返りのワークショップ
数人に分かれてグループワークで行った。（村田恵子がファシリテーター）



本庄会場 第1回講座 全体



越谷・草加会場 第1回講座（越谷市）全体

●越谷・草加会場

③ 第1回 ケアラーズサロン担い手講座

日時 2022年10月12日 13時30分～16時30分

場所 越谷市中央市民会館



越谷・草加会場 第2回講座（草加市）WS

プログラム

- ・ケアラーの現状と課題（堀越栄子日本女子大学名誉教授の講義）
- ・ケアラーの体験談 長谷川利光さんの話
- ・ケアラーズサロンの効果と運営について（村田恵子専務理事が講義）
- ・講義の振り返りのワークショップ
数人に分かれてグループワークで行った。（村田恵子がファシリテーター）

④ 第2回 ケアラーズサロン担い手講座

日時 2022年10月24日 13時30分～16時30分

場所 草加市文化会館

プログラム

- ・傾聴の講義とロールプレイ
村松治子さんによる講義とロールプレイ。3人1組で行われた。
- ・講義の振り返りのワークショップ
数人に分かれてグループワークで行った。（村田恵子がファシリテーター）

1. ケアラーズサロン担い手講座事業

■ 実績 ■

●本庄会場

- ① 第1回 17人参加
- ② 第2回 11人参加

すでにケアラーズサロンのボランティアを行っている人が6人参加。ボランティアが期待される人も参加していた。障害児の家族とその支援者のNPO法人ま・るーくからも2人参加した。

第2回目は本庄市の事業と重なったため減少した。

7月11日に本庄ケーブルテレビで「市民ニュース」として報道された。

●越谷・草加会場

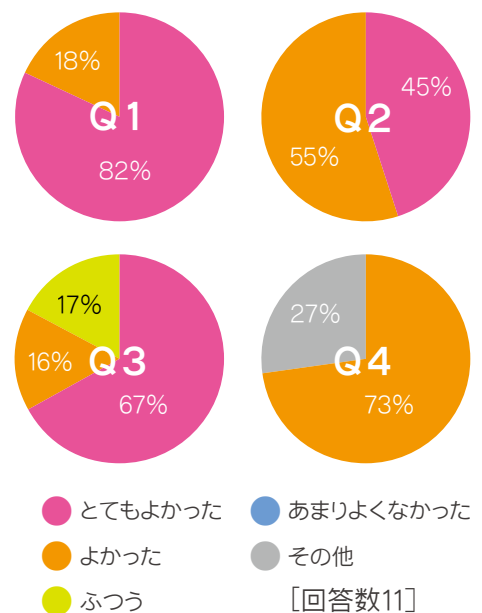
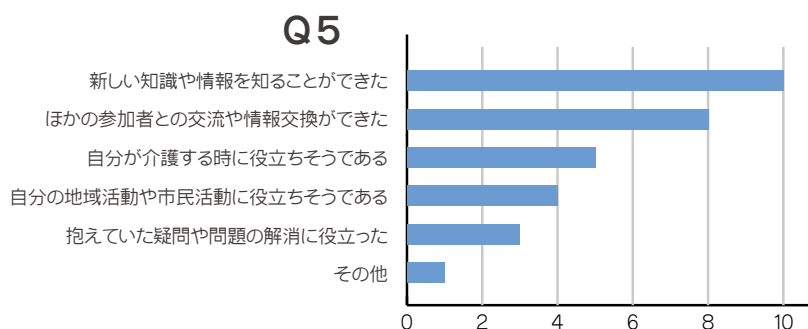
- ③ 第1回 34人参加
- ④ 第2回 28人参加

越谷会場では新規の参加者が大半だった。越谷市の職員2人も参加。市の広報誌の掲載や関係団体回りを行った。草加会場は生協関係の事業があり、そちらに出かけたボランティアさんたちがいて、少し参加者が減った。

ケアラーズサロン担い手講座 参加者アンケート

【本庄会場 第1回（2022年7月4日）】

- Q1.「ケアラーの現状と必要な支援」（堀越栄子）について
- Q2. 介護体験者のお話について
- Q3.「ケアラーズサロンの効果と運営について」（村田恵子）について
- Q4. ワークショップについて
- Q5. 今日の講座を受けて、どのような点がよかったですか（いくつでも）

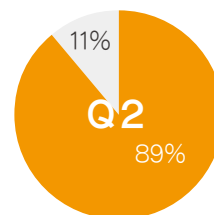
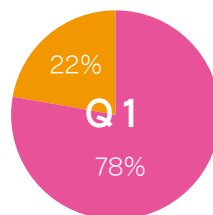
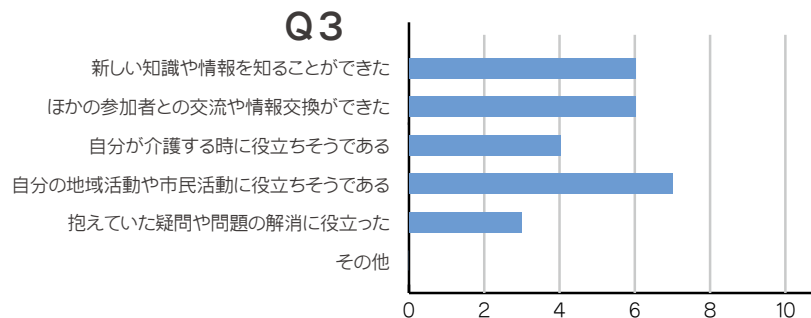


【本庄会場 第2回（2022年7月11日）】

Q1. 「上手に聴いて寄り添うための傾聴入門」（村松治子さん）について

Q2. ワークショップについて

Q3. 今日の講座を受けて、どのような点がよかったですか（いくつでも）



● とてもよかった ● あまりよくなかった
● よかった ● その他
● ふつう ● 無回答
[回答数9]

【越谷・草加会場 第1回（2022年10月12日）】

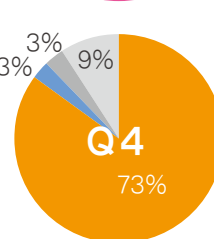
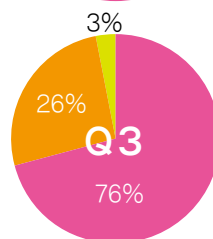
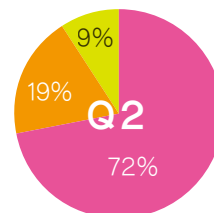
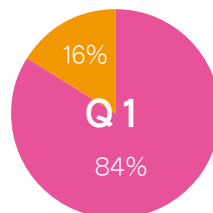
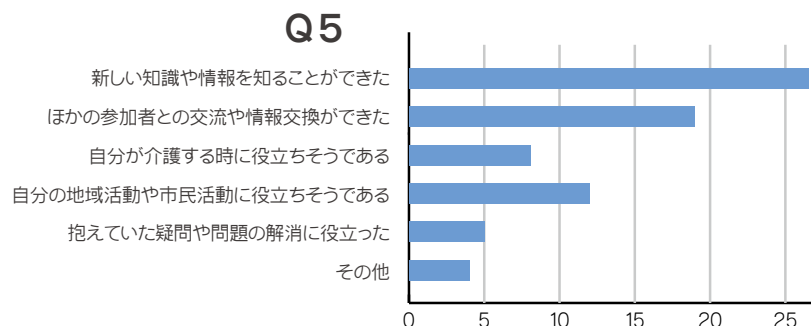
Q1. 「ケアラーの現状と必要な支援」（堀越栄子）について

Q2. 介護体験者のお話について

Q3. 「ケアラーズサロンの効果と運営について」（村田恵子）について

Q4. ワークショップについて

Q5. 今日の講座を受けて、どのような点がよかったですか（いくつでも）



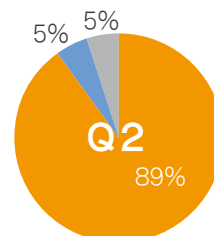
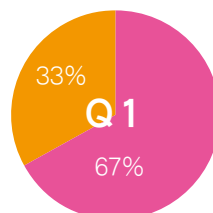
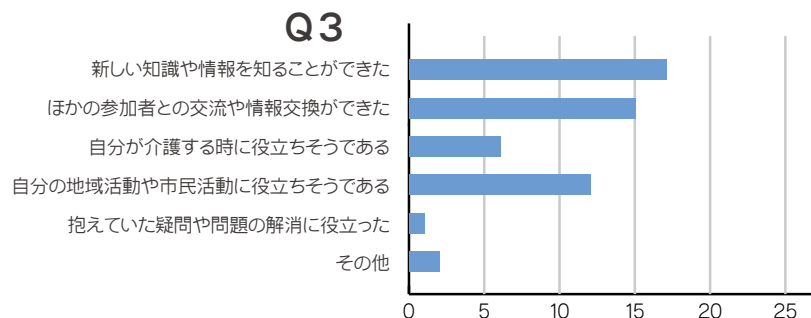
● とてもよかった ● あまりよくなかった
● よかった ● その他
● ふつう ● 無回答
[回答数34]

【越谷・草加会場 第2回（2022年10月24日）】

Q1. 「上手に聴いて寄り添うための傾聴入門」（村松治子さん）について

Q2. ワークショップについて

Q3. 今日の講座を受けて、どのような点がよかったですか（いくつでも）



● とてもよかった ● あまりよくなかった
● よかった ● その他
● ふつう ● 無回答
[回答数21]

2. ZOOM講座事業

■ 目的 ■

ZOOMを使った「オンラインケアラーズサロン」を開催することを目的とする。また他地域のケアラーズサロンの運営者と情報交換ができるようにする。

■ 概要 ■

「ZOOM講座～離れていてもみんなで話せる」というタイトルで開催した。希望があった草加市内で会場が確保できなかったこと、パソコンを持ってない人がいたので、パソコンが必要になり、パソコンのあるさいたま市浦和区の事務所で実施することになった。2回目の希望者は東松山市、八潮市のグループで、パソコンの貸し出しが必要だったので事務所で実施した。テキストは市販の初心者用テキストを使用した。

1回目は、初心者が2人いたために、1人1人に講師がつく状態で実施し、目標としていたプログラムまで教えることができたが、もう2人は経験者だったので、先のプログラムに行きたかったが、できなかった。

2回目は、経験者と未経験者がまじっていたが、基本的なITに関する知識や操作法を知っていたので、プログラムの目標を達することができた。

① 第1回 ZOOM講座

日時 2022年9月28日 13時～16時
場所 さいたま市浦和区東仲町 事務所
講師 野手香織さん、鈴木奈穂美さん

② 第2回 ZOOM講座

日時 2023年1月26日 10時～13時
場所 さいたま市浦和区東仲町 事務所
講師 野手香織さん、佐久間禎久さん



■ 実績 ■

「介護者支援の会草加」から代表、事務局長、ボランティアなど4人参加
 「介護者家族の会ひなた」（八潮市）の代表とスタッフと「東松山介護者支

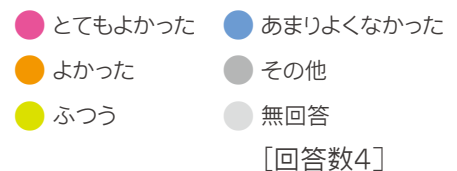
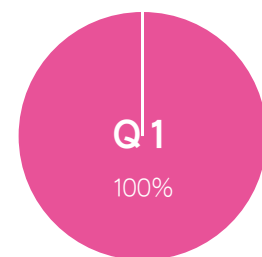
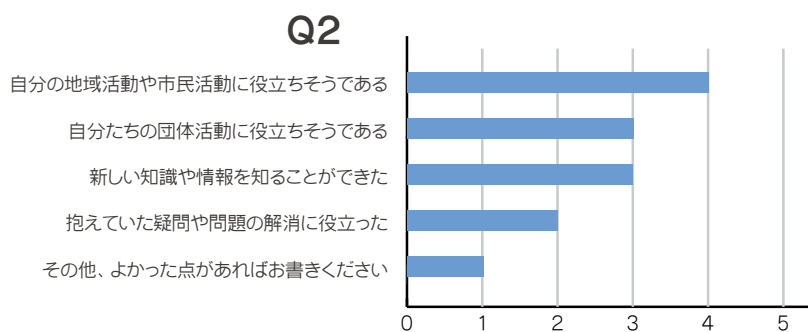
援の会ほっと」代表の3人が参加。
 パソコンの貸し出しは1台。目標としていたプログラムは達成した。

ZOOM講座 参加者アンケート

【浦和会場 第1回（2022年9月28日）】

Q1.「第1回Zoom講座」についていかがですか

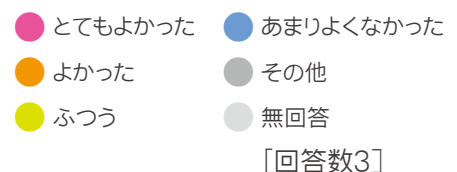
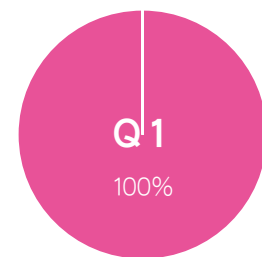
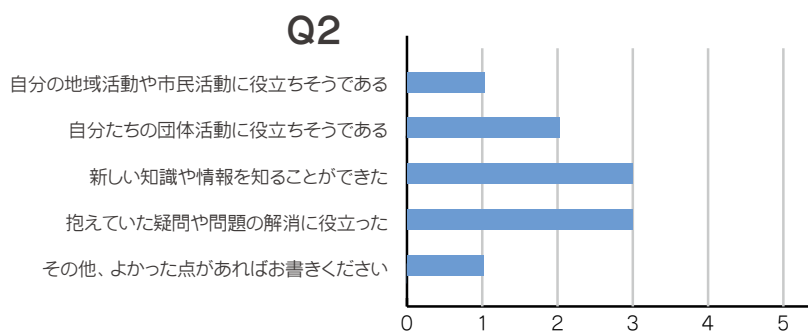
Q2.今日の講座を受けて、どのような点がよかったですか（いくつでも）



【浦和会場 第2回（2023年1月26日）】

Q1.「第1回Zoom講座」についていかがですか

Q2.今日の講座を受けて、どのような点がよかったですか（いくつでも）



3. LINE講座事業

■ 目的 ■

スマホのLINEの習熟により、メールやグループトーク、ビデオ通話ができるようになり、スタッフやケアラーの情報交換を早く、頻繁に、楽にするためにIT化することを目的とする。

LINEグループを形成し、日常的な交流もできるようにする。

■ 概要 ■

講座名を「LINE講座～LINEをおぼえて連絡を楽しく、ラクラクに」とし、高齢の参加者のペースに合わせてゆっくり指導した。テキストはソフトバンクが配布していた初心者向けを使用。「LINEアプリの登録」「画面の説明」「友達追加」「トーク」「スタンプ」「グループの作り方」を操作しながら指導した。

最後は参加者全員で「ビデオ通話」を行った。どの会場でも最初は緊張していた面持ちの参加者が最後は笑顔になった。



① 第1回 LINE講座

日時 2022年7月21日 13時～16時

場所 志木市便利屋助さんショールーム

講師 佐久間禎久 村田恵子



② 第2回 LINE講座

日時 2022年9月22日 13時30分～16時30分

場所 草加市中央公民館

講師 佐久間禎久 村田恵子



③ 第3回 LINE講座

日時 2022年12月8日 10時～13時

場所 八潮市身体障害者福祉センター

講師 佐久間禎久 村田恵子



④ 第4回 LINE講座

日時 2022年12月21日 10時～13時

場所 生活クラブ生協生活館(草加市)

講師 佐久間禎久 村田恵子



⑤ 第5回 LINE講座

日時 2023年1月31日 13時30分～16時30分

場所 久喜市「久喜ふれあいセンター」

講師 佐久間禎久 村田恵子



3. LINE講座事業

■ 実績 ■

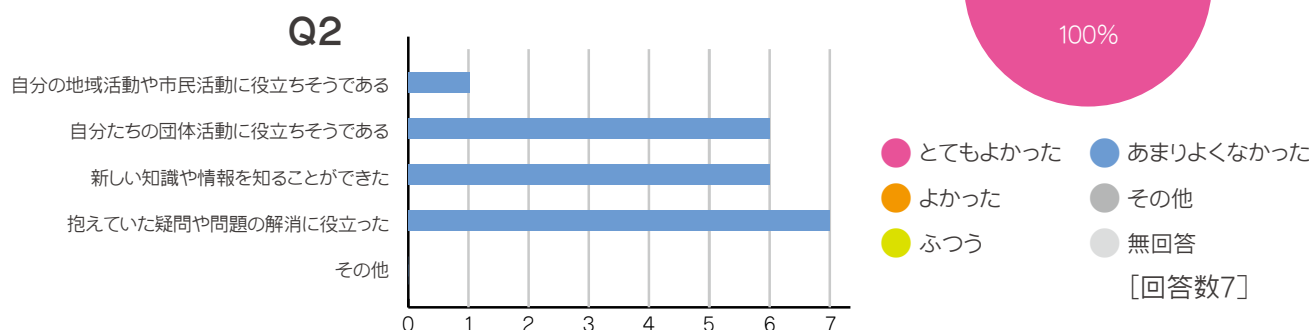
- ①志木介護をする人を考える会のボランティア7人参加。
- ②介護者の集い「オアシス」のボランティア1人、ケアラー7人の計8人が参加。
- ③介護者家族の会「ひなた」のボランティア1人、ケアラー3人参加。計4人参加。
- ④草加介護者支援の会のほっとスペース「らくだ」とほっとスペース「こもれび」のボランティア2人とケアラー4人、計6人参加。
- ⑤久喜介護者の集いの代表とケアラー5人の計6人が参加。

LINE講座 参加者アンケート

【第1回（2022年7月21日／志木会場）】

Q1.「LINEを覚えて連絡を楽しく、ラクラクに」（佐久間禎久さん）について

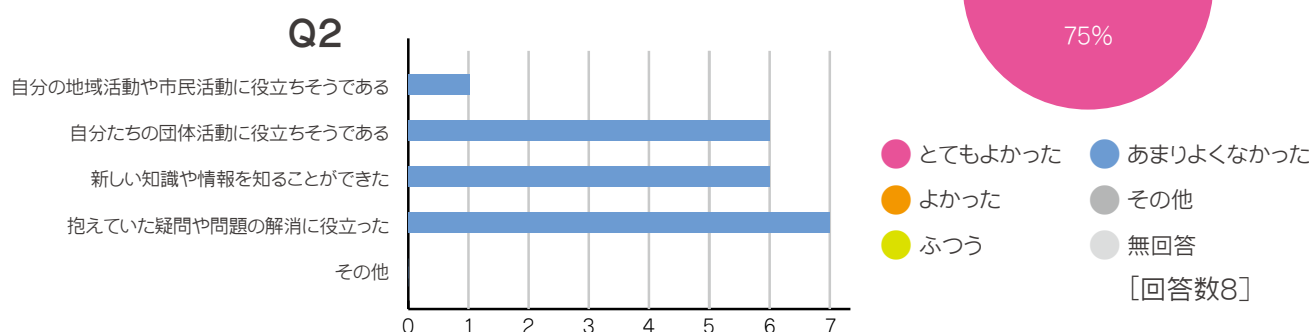
Q2.今日の講座を受けて、どのような点がよかったですか（いくつでも）



【第2回（2022年9月22日／草加会場）】

Q1.「LINEを覚えて連絡を楽しく、ラクラクに」（佐久間禎久さん）について

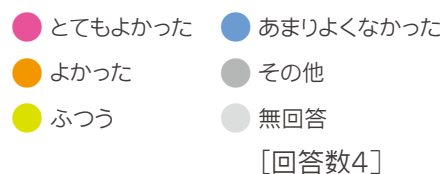
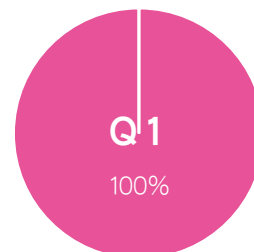
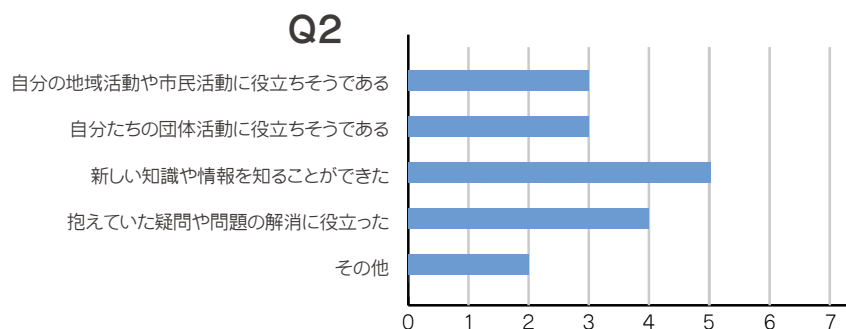
Q2.今日の講座を受けて、どのような点がよかったですか（いくつでも）



【第3回（2022年12月8日／八潮会場）】

Q1.「LINEを覚えて連絡を楽しく、ラクラクに」（佐久間禎久さん）について

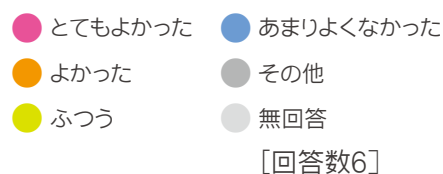
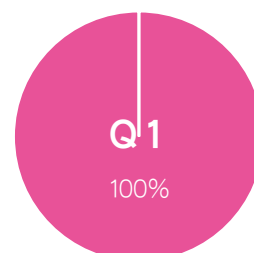
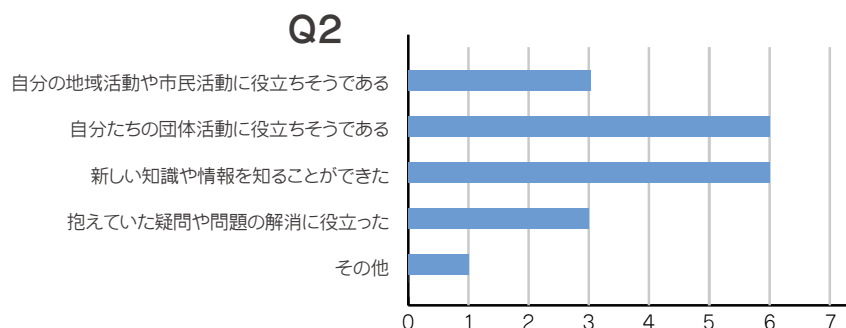
Q2.今日の講座を受けて、どのような点がよかったですか（いくつでも）



【第4回（2022年12月21日／草加会場）】

Q1.「LINEを覚えて連絡を楽しく、ラクラクに」（佐久間禎久さん）について

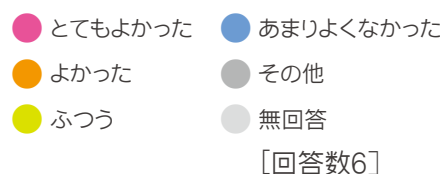
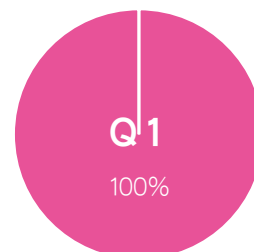
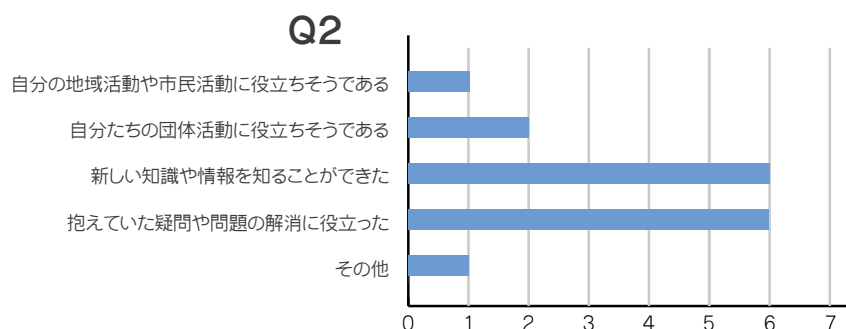
Q2.今日の講座を受けて、どのような点がよかったですか（いくつでも）



【第5回（2023年1月31日／久喜会場）】

Q1.「LINEを覚えて連絡を楽しく、ラクラクに」（佐久間禎久さん）について

Q2.今日の講座を受けて、どのような点がよかったですか（いくつでも）



4. 多様なケアラーズサロン交流会・勉強会事業

■ 目的 ■

障害児や難病児、医療的ケア児等のケアラーが組織している「多様なケアラーズサロン」のネットワークを構築する。

■ 概要 ■

NPO法人ま・るーく（発達障害児のケアラー・本庄市）、NPO法人NPOにじいろ（重症心身障害児のケアラー・熊谷市）、NPO法人mamacare（医療的ケア児のケアラー・三芳町）、ニモカクラブ（難病児のケアラー・飯能市）、医療的ケア児の会・ひまわりの会（医療的ケア児のケアラー・川口市）聞こえないきょうだいをもつSODAの会（ろうあの子ょうだいをもつケアラー）、ケアラー誰でもオンラインサロン（坂戸市）の7団体と、ケアラー支援者たちが15人ほど集まって、自団体の活動発表や意見交流会を行った。また勉強会では春日井市と高崎市、札幌市から講師を招いて講演と質疑応答を行った。

ZOOMでのオンライン交流会だったが、ZOOMでこそ集まれた顔ぶれだった。ただし、厳しいケアの現実を反映して開始時間はだんだん遅くなり、最終回は21時開催となった。障害児・者、難病児のケアラーのおかれた状況の多様性と厳しさに言葉が出ない場面もあった。それでも埼玉県各地、春日井市、高崎市、札幌市の地でケアラー支援を真摯に行っている人たちの出会いが希望ともなった。



① 第1回 多様なケアラーズサロン交流会

日時 2023年1月26日 20時30分～21時

発表団体 NPO法人にじいろ、聞こえないきょうだいをもつSODAの会、医療的ケア児の会・ひまわりの会

内容 各団体が活動を発表。その後、話し合いを行った。

団体の概要

●NPO法人にじいろ（代表理事 牛頭智子さん）

熊谷市の重症心身障害児の発達支援施設で出会ったと親と子、支援者で2013年に立ち上げ、2018年に法人化。家族交流会、地域イベント、会報を発行し、助成金を獲得して、「在宅の身体障害児とその家族の生活アンケート」調査、「障害児者の命をまもる防災セミナー」を行った。

●きこえないきょうだいをもつSODAの会（代表 藤木和子さん）

障害のある姉・兄をもつきょうだいは、生まれた時からケアラーとして期待されている。聾啞のきょうだいをもつ人達のネットワークをつくって、一生、ケアを期待されているきょうだいが自分自身の人生を送れるよう、語りあいの場やyoutubeでの発信、悩みの相談にのっている。

●医療的ケア児の会・ひまわりの会（濱野紀子さん）

川口・戸田・蕨の医療的ケア児（略して医ケア児）を持つ約20家族が主にLINEで連絡をとりあって、困りごとや身近な情報を交換している。しかし4年活動したが、3月末で解散することになった。濱野さん自身は、11歳になる重症心身障害児の医ケア児を育てている。

② 第2回 多様なケアラースタイル交流会

日時 2023年2月2日 20時30分～22時

発表団体 NPO法人ま・るーく、ニモカカクラブ、NPO法人mamacare

内容 各団体が活動を発表。その後話し合いを行った。

団体の概要

●NPO法人ま・るーく（代表理事 内田晶子さん）

2018年に児玉郡市の知的・発達障害のある子どもの親が「子どもがいつまでもこのまちで幸せに生きていくためにできることを考えよう」と立ち上げた。親たちのケアラースタイル活動は月2回、公民館やコミュニティカフェで開催。

最近では不登校児の親も参加している。サロンは親が日頃のケアから解放される場である。話したくない人は話さなくてもいいと自由に過ごしている。

●NPO法人mamacare（理事長 藤川友子さん）

様々な理由で医療的ケアが必要になった子どもを育てている親が2014年から活動を始めた。医ケア児を育てる育児書もなく、悶々としていたころ、自分のマンションの集会室で医ケア児の親同士が集まって話す会を開催した。それが発展してイベントも行うようになった。2019年には法人化し、2023年1月には医ケア児のための訪問看護ステーションを設立した。

4. 多様なケアラーズサロン交流会・勉強会事業

●ニモカクラブ（代表 和田芽衣さん）

子どもの難病がわかり、母子で引きこもり状態に。しかし、子どもを連れて障害者団体のカフェを巡るうちに、患者会ではなく、ご当地密着型の当事者団体を設立したいと思うようになった。現在は毎月1回、自宅のアトリエを開放して「スペシャルキッズカフェ」を開催している。

③ 第3回 多様なケアラーズサロン勉強会

日時 2023年2月16日 20時30分～22時

内容 講師2人の話を聞いた後、話し合いを行った。

●NPO法人てとりん理事長 岩月万季代（春日井市）さん発表の概略

てとりんは常設の「家族介護者支援センターてとりんハウス」を2012年にオープンし、ケアラーに居場所を毎日提供している。常勤3名とボランティアで運営。ケアラーズカフェ、認知症カフェ、介護と暮らしの情報コーナー、傾聴と相談、生活支援、ケアラーの息抜き、趣味を支援、看護師、薬剤師などの専門職による相談もしている。介護保険事業のデイサービスを別場所で実施していて、この事業の収益をてとりんハウスに回している状況。10年以上たち、行政の支援は月5万円の認知症事業費があるものの、居場所継続には不足しており、疲れてきたというのが本音だが、年間9000人以上の利用者がいる。



●NPO法人iitoko代表理事 浅香千恵（高崎市）さん発表の概略

iitokoは大きな民家を利用して、発達障害児をもつお母さんたちの癒しの場所としてオープンした。相談にも乗るし、子どもと一緒に遊んでもいいし、散髪もしてくれる（発達障害児の散髪はとても大変!）自由に話し合える「お母さんの集い」もある。カフェ、レストラン機能もある。代表の浅香さんは障がい児施設の職員だったが母親たちの苦労を見て起業。しかし、経済的には厳しい経営である。



④ 第4回 多様なケアラーズサロン勉強会

日時 2023年3月8日 21時～22時30分

内容 医療的ケア児の支援を長年、行ってきた松澤明美さんの研究途上ではあるがその内容を聞いた。

●松澤明美北海道大学保健科学研究院 保健科学部門 創成看護学分野准教授 発表の概略
医療的ケア児をケアしている家族の価値観についてグループで研究している。価値観は行動の動機づけになるが、価値観を計るのは難しい。心理学の理論を使って調査・研究して、ほぼめどがついてきたが発表は来年になるだろう。最近のベネッセの調査では子育ても大事だが、自分も大事という人が6割を超した。父親の子育て支援も父親の子育て観を反映したものが必要である。自分の子育て観に気が付くために47枚のカードを制作して、11段に分かれて配置していくカードワークを考案した。並び方でその人の子育て観が分かる。一昨年、医療的ケア児の母親や父親に参加してもらい、このカードワークを行った。本人自身が気がついていない価値観が垣間見えたという。未発表の貴重な研究の一端を聞いて、参加者は刺激を受けた。完成したらカードワークをやってみたいという意見が多数でた。

■ 実績 ■

①第1回、上記の団体に支援者、研究者合わせて15人が参加

②第2回、上記の団体に支援者、研究者合わせて15人が参加

③第3回、上記の団体に支援者、研究者合わせて15人が参加

④第4回、上記の団体に支援者、研究者合わせて14人が参加。

交流を深めるため、メンバーをあえて拡大しなかったため、第1回～4回まで、ほぼ同じメンバーが参加した。

Ⅲ. 成果と 今後の展望

事業終了後に事後評価アンケートを参加者や講師に配布して意見をもらった。

1. ケアラーズサロン担い手講座

①本庄会場で運営を手伝ってくれた「介護サポーターズクラブけあふれんど」では、障害児のケアラーを対象としたケアラーズサロンを立ち上げたいと準備中だった。そのため本講座はボランティアスタッフのよい学びとなったと聞いている。また、「多様なケアラーズサロンの交流会・勉強会」にもボランティアが参加したが、医療的ケア児の母親たちの話を聞いたのは貴重な体験だったとのことである。また講座には同じ本庄市で活動する「NPO 法人ま・るーく」のメンバーを誘った結果、2人参加してくれたので、それまで同じ市ではあったが、面識がなかった「ま・るーく」と「けあふれんど」をつなぐことができた。

②越谷会場では34人の参加者のうち8割近くが、新規の参加者で、ケアラー支援の考え方の浸透ではかれたと思う。また「越谷介護者の会」が行っている介護者サロンの参加者

が、講座が終わってから増えており、宣伝になったとみている。

越谷市では「ケアラー支援条例」の制定を行政が準備中であり、職員も参加した。条例づくりの段階になるとどうしても行政主導になるが、今後も講座などを開いて、当事者団体以外の市民にケアラー支援をアピールしていくことが求められている。

③草加会場では「介護者支援の会草加」のボランティアスタッフの中で研修を受けていなかったメンバーが、受講したことで自信がついた、と答えていた。国会議員の秘書、ヤングケアラー関係団体からの参加などあり、「ケアラー支援」の関心の高まりを感じた。草加市は県東部では一番「ケアラーズサロン」が多い地域であり、スタッフの再研修として最適の地であった。

2. ZOOM講座事業

①県内におけるケアラーズサロンネットワークを通して、参加を呼び掛けたが、予想に反して参加者が少なかった。自宅にPCがあり、ネット環境も十全にあるという条件は現役世代では珍しくないが、現役を離れて10年以上たつ対象者たちからは「PCが壊れている」という返事が珍しくなかった。それでも受講

者からは、「高齢者であっても喫緊の課題だったので、今後もやってほしい」という要望があった。

またオンラインでサロンや会議をしてみたいというモチベーションのある受講者にとっては3時間ではあっても、受講者の理解度は高かったと講師がのべていた。

3. LINE講座事業

この事業も当初は希望者が少なく、ニーズに合わないのかと思ったが、個人指導ができる人数はメイン講師とサブ講師がいても6人程度であり、結果として受講者には満足度の高いものになった。好評だった原因は講師がていねいに一人ひとりに対応したこと。サブ講師が初心者についたこと。テキストがあったので講師は獲得目標を示すことや時間配分ができた。受講者は、終了後に自分で学べた。現在、LINEを使用中の人は「ラインは使いこなせていると思ったが、知らない機能を学べました」「こうできたら便利だと思っていたことを教えてもらえた」と述べている。電話機能

しか使っていなかった人は「ビデオ通話ができ」「背景が変えられた」「スタンプや写真が送れた」という事後アンケートをもらった。講義中も笑い声があり、終わったころは受講者の笑顔が見られた。LINEでグループが作られてボランティアスタッフの連絡が格段に楽になったという報告があった。またサロンに来ているケアラーさんとLINEでつながれたという。LINE講座がきっかけで3年ぶりにサロンにやってきて、気分が前向きになり、その後は毎回ケアラーズサロンにくるようになった人もいた。LINE講座パート2の要望が出ている。

4. 多様なケアラーズサロン交流会・勉強会事業

埼玉県内のケアラーズサロンの参加者の大半は高齢者ケアラーである。

しかし、ケアラーは多様である。ヤングケアラーは認知度が高いが、ダブルケアラー、きょうだいケアラー、難病児のケアラー、医療的ケア児のケアラー、そして重症心身障害児・者のケアラー、発達障害児のケアラー。彼らがどんな思いで暮らし活動しているのか、お互いまだ知らない。

そこで企画された事業であったが、固定したメンバーで4回行ったことで、

①相互理解が深まった。

②ケアラーとしての共通点とともにケアをしている相手により、ケアラーの日常生活や人生への影響が異なることがわかった。

③多様なケアラーはケアの必要な相手を担当とする行政と向き合っている。ケアラー、ケアを必要とする人、その他の家族のニーズに対応するには、地域包括ケア、障害福祉、こども関係、教育関係、医療関係などの連携と、総合的に対応できる拠点がほしい。

本事業も要望があるので、さいたまNPOセンターでは2023年度も実施していく。

ケアラーズサロンの多様性と持続化支援 及びIT情報網の促進事業 事業報告書

発行日 令和5（2023）年3月発行

発行 認定特定非営利活動法人さいたまNPOセンター

〒330-0056さいたま市浦和区東仲町12-12-102

電話048-811-1666 E-mail office@sa-npo.org

助成 令和4年度独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業